

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年1月22日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873900488
事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	富永久
自己評価作成日	2019年 1月 7日

<p>【事業所理念】 笑顔と思いやり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (前回の目標: 会議への積極的な参加と、会議の場では率直な意見が聞けるようにしていきたい。) 外部評価の結果を家族に伝え参加のお願いをすると数名の方が引き受けていただいたが、積極的な参加には至らなかった。 (前回の目標: 自身の思いを汲み取りながらその人らしい生活が送れるように支援していきたい。) 本人の行動や会話等、日々の関わりあいの中から思いや希望を汲み取っていきその情報を職員や家族・医療機関等とも共有するように努めた。 (前回の目標: 非常災害時には地域と協力し合えるような協力体制を作っていきたい。) 地域との協力体制を確保することはできなかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は自然豊かな環境に囲まれ利用者は季節の移り変わりを目や肌で感じながら過ごすことができている。職員は尊厳や礼儀を大切にしながら支援に努め、初心を忘れないよう心がけている。利用者の思いに寄り添いながら介護計画が作成され一つ一つ達成できるよう支援している。開設して15年、地域住民との交流を大切に地域に密着した事業所となっている。利用者の重度化を踏まえ、利用者や家族の意向に沿えるよう主治医と連携を図り、積極的に看取り支援に努めている。</p>
----------------------------	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時、計画作成時に聞き取りしている。又、毎日の生活の中からも汲み取るように努めている。	◎	/	○	毎日の生活の中で会話を多くもち、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。入居時や介護計画作成時にも暮らし方の希望を第一に聞き取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情等から思いを汲み取るようにしている。又、気持ちに立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時等に「本人の思い」について聞くようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気付いたことや感じたこと等は記録し、申し送りノートにて情報の共有を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思い込みや決めつけにならないようチームで考えている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に聞き取りを行いフェースシートに記入している。	/	/	○	利用者や家族、入居前に関わっていた事業所の職員から情報を得ることが多い。入居後、友人や近所の農業仲間が面会に来た際に新たな情報を聞いており、得られた情報はフェイスシートに残し共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できることはしていただき、できそうなことは一緒にしながら、毎日の生活の中で把握できるように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎日の生活の中で把握し、申し送りや記録等で情報共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の生活の中で把握し、申し送りや記録等で情報共有しているが不十分な所もある。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録の中で変化や違いを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	入所時、計画作成時に希望・意向を聞き把握に努めるようにしている。	/	/	○	入居時に把握した利用者や家族の意向をもとに、利用者本位の視点で話し合い検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにてどのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人や家族、関係者等の意向を踏まえ課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意向を聞いて介護計画を立てている。また、聞き取りが困難な方に対しては日々の様子から汲み取り介護計画に反映できるようにしている。	/	/	/	外出したい、楽しみを見つけたいの利用者の思いに応えるため、職員と家族が話し合いそれぞれの意見を出し合って利用者本意の介護計画となるよう取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や関係者等と利用者本人がよりよく暮らすためのケアのあり方について相談している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族や関係者等と相談しながらその人らしい日々が過ごせるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族や地域の人たちの協力を得ることはあるが介護計画に盛り込むことは少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録ファイルの中に綴じておりいつでも確認できるようになっている。	/	/	○	介護計画と経過記録は一つのファイルに綴じており、記録の際に確認して共有している。介護記録は「ケアプランに基づく介護・生活状況」の項目で利用者の様子を具体的に記録している。職員の気づきなどは報告しながら記録するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに基づく介護として記録している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとり個別に具体的に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づきや工夫、アイデア等の報告や申し送りはあるが一人ひとり個別に具体的に記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとに見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は基本3か月で見直しているが、利用者の状態に応じ、3か月～6か月で見直している。変化がみられない場合も毎月モニタリングを行い気づきを記録している。状態に変化が生じた場合は、その都度家族や関係者等と話し合い、現状に合った介護計画に見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	適切なケアが行われているか目標にむかったケアが行われているか確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態、状況に応じて見直しを行うようにしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急案件については会議という形ではなく担当職員にて話し合いをしている。	/	/	○	緊急案件の場合は、会議という形はとらず担当者でその都度話し合い共有するようにしている。会議等に参加できない職員には、連絡ノートを確認し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	介護に関することだけでなく色々な意見が言える雰囲気となっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全職員が参加する会議の開催は難しいため、リーダーが全職員の意見を聞いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートで伝えるようにしている。確認したらサインをするようになっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝と夕に申し送りを行っている。また、申し送りノート等を活用して確認した際はサインをするようにしている。	/	/	○	事業所全体のノートやユニット毎のノート、業務日誌などを活用し申し送りを行い、情報を伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝と夕の申し送りや申し送りノート、業務日誌等に記入して必要な情報が伝わるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	介護計画や本人の意向をもとにしたいことへの支援を行っているが、その日その時々思いを聞いている。	/	/	/	朝の着替えの際に、洋服やくつ下など何かひとつでも選んでもらえるようにしている。調査日もテレビのチャンネルやかるた遊びなど、利用者が自由に選んで楽しむ光景を窺うことができた。日頃から職員は笑顔でゆっくりとした声かけを心がけるなど、利用者の笑顔を引き出せるよう雰囲気づくりを工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択しやすい場をつつたり、どうしたらよいか意向をたずねるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	選択しやすい場をつつたり、どうしたらよいか意向をたずねるようにしているが、職員の都合で動いている時もないとはいえない。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を大切に支援しているが、生活にはリズムがあること、共同生活の場であることによっては決まりが優先されてしまうこともある。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔でゆっくりとはっきりとした声かけを心がけている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	毎日の生活の中から表情や仕草等より意向を把握して支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修会にて勉強する機会をもっている。人権やプライバシーを大切に行動をするよう努めている。また、職員同士で注意しあうよう心掛けている。	◎	◎	◎	人権や尊厳について内部研修で勉強する機会をつつており、職員全員が利用者のプライバシー尊重を意識した支援に努めている。トイレ誘導等の際は、さりげない声かけを徹底するよう努めている。居室に入室の際は、必ずノックや声かけをするようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレ誘導時には小声でオムツ交換の際にはさりげなく行うようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	居室やリビングから見えにくいよう目隠しをしている。羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室の際には声かけやノックをしている。また、居室不在の時でも声かけをするようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護及び個人情報漏えい防止等に関する誓約書に署名をし退職後も義務があることを周知徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	花の名前や料理の仕方、昔の歌や方言・風習など教えていただくことが多くある。	/	/	/	職員は利用者それぞれの性格を理解し、席配置等には気を配り、利用者同士のトラブル防止に努めている。不穏になりそうな場合には、職員が仲介し、別室に移動し気分転換を図るなどして支援している。食後に世話好きな利用者が、重度の利用者の口元やエプロンの食べこぼしを拭く微笑ましい光景を窺うことができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食器を片づけたりエプロンをつけたり、車いすを押したり席を譲ったりされている。その際、職員は見守り感謝の意を示している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し席の配置や会話等に気を付けているが、トラブルゼロにはいたっていない。仲の良い利用者同士は楽しく一緒に過ごしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要な場合には家族、医師とも相談したり推進会議等でも相談・助言をいただくようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族、地域の方や以前受けていたサービス事業所等から聞き取りをしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族、地域の方や以前受けていたサービス事業所等から聞き取りをしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅でのバーベキューに参加できるよう支援したり、なじみの場所での散髪や食事、買物等の支援も行うようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間に制限をつくらず、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	庭に散歩に出たりベランダにてお茶をしたりして過ごしている。本人や家族の意向もあり、ドライブによく行く利用者は決まってきた。	○	×	○	広い庭先を散歩したり畑の作物を見に行ったりしている。ベランダに出てお茶を楽しんだり、ドライブに出かけたりすることもある。重度な利用者もベランダに出たり、併設の施設へ交流に行ったりして、戸外に出かけられるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員との外出が主となっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	庭に散歩に出たりベランダにて外気浴や日光浴をされている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力を得て一時帰宅や外出は行えているが、地域の人々の協力を得ることはできていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々の利用者に応じた認知症の症状について正しく理解するよう取り組んでいる。	/	/	/	食事の配膳や洗濯物をたたむことなど、利用者にはできることに取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	庭の散歩やラジオ体操、家事の手伝いや日常生活動作の中からも機能低下防止が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることはしていただき、できそうなことはできるよう工夫したり一緒に行うようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人の価値観や有する力を把握するよう努めている。	/	/	/	日めくりカレンダーを変えることや、掃除や洗濯物をたたむことなど、職員は利用者一人ひとりが有する力に応じ、役割を担ってもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人の有する力に応じて役割を持ってもらい、日課や生きがいになるように取り組んでいる。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の季節の行事に参加したり、他施設の利用者様と交流をもつようになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自身の服を持ってきていただきどれを着るか選んでいただいている。	/	/	/	職員は整容の乱れや食べこぼしなどに注意を払い、利用者のプライドを傷つけないよう配慮し、さりげない支援に努めている。重度の利用者も訪問内容で髪を整えたり、出かける際は好みの服装に着替えるなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自身の服を持ってきていただきどれを着るか選んでいただいている。また、服や持ち物等は一緒に買い物に行き好きな物を選んでいただいている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	何点か選んでその中から決めていただくようにするが、その何点かは職員が選んでしまっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の際には帽子をかぶったりスカーフやケープを巻いたりして、おしゃれを楽しんでいただいている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないようさりげなくカバーするよう心掛けている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	お気に入りの美容室でカットされたり家族様がカットされたり等、本人や家族が望むよう支援できている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	なじみの美容室に来院してもらいカットしていただいている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事とは生きていくうえでとても重要であり、かつ楽しみでもあることを理解している。	/	/	/	利用者と一緒に好みの物を取り入れながら献立を考えたり、買い物に行ったりしている。調理の下準備や台拭きなどできる利用者は手伝っている。菜園で収穫した旬の野菜を使って家庭的な料理を作るよう心がけている。湯呑みや茶碗など、自宅から持ってきた食器や使い勝手のいいものを使用している。職員と一緒に食事をすることもあるが、食事介助を優先し利用者の食事が終わった後に摂ることもあるため、職員間で食事介助と利用者と一緒に食事する役割を分担するなど検討して欲しい。重度な状態でも、リビングに出て調理の匂いなどの雰囲気を感じられるよう努めている。栄養士が献立表を確認しバランス良く栄養が摂れるよう努めているほか、職員間でも利用者の栄養バランスについて話し合い偏らないようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜を新聞紙で包んだり野菜の皮をむいたりすることで一緒に調理している。買い物や食品庫からの物品の出庫も手伝っていただいている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自身の役割割りとして積極的にされている方もおられる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に聞き取りを行っている。毎日の生活の中からも把握するように努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の食材を用いた家庭的な料理を提供するようにしている。また、行事食を提供することで季節を感じられるようにしている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食や刻み食での対応となる時は、医師や栄養士等からの指導を受けながら対応している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅より持ってきていただいたり、状態に応じたものを使っている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じ食事を食べることに関しては職員に任せられている。(どこで何を食べるかは自由としている)一人ひとりのペースに合わせた介助を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	必ずホールで一緒に食事を食べるようにしている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの食べれる量を考え盛り付け提供している。栄養バランスや水分摂取量は栄養士の助言のもと行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養や脱水には特に気を付けており、血液検査にて状態を把握し必要な時は栄養補助食品等、利用している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	メニュー表をつけ確認することで偏らないようにしている。また、栄養士にも確認してもらいバランスのよい食事の提供をなるべく心掛けている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	基本、野菜は道の駅で購入したものや自らの畑で育てた物を使用している。調理用具は毎日消毒をしている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後、口腔ケアを行っている。状態に応じた用具を使用することで誤嚥性肺炎の防止を図っている。	/	/	/	利用者の口腔内は定期的に確認し、状況を把握するようにしている。職員は食後、利用者を洗面台に誘導しそれぞれにあった用具で口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	利用者の口腔内は定期的に確認し、清潔が保てるよう支援している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	受診の際に学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後洗浄し、夜は洗浄剤につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	状態に応じた用具を用いることで口腔の清潔を保つよう支援している。出血や炎症、入れ歯の具合は定期的に確認している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	状態に変化があった時は家族に連絡をし受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄支援の重要性やデリケートなケアであること等概ね理解している。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とし、利用者の排泄パターンを把握し早めに声かけや誘導を行うようにしている。おむつやパッドの必要性については、常時話し合いを持ち、家族に了解を得ながら利用者一人ひとりの状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており排便日・排便状態の確認の重要性も認識している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録表に記入して排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	パットを使用することで個人負担の軽減を図ったり、夜と昼の使用内容を変えることでトイレで排泄ができるよう支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	様々な面より色々な要因を考え改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンをもとに早めの声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態や排泄パターンをもとに相談し、家族の同意を得てからのおむつ使用としている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使用している。昼と夜の使い分けや下剤服用時、おむつの形等	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルト、牛乳等の提供や腹部マッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	月・水・金と基本は決まっているが、希望があり職員の体制が整っていれば入浴可能である。	◎	/	○	入浴日は決まっているが、利用者の要望があれば浴えるよう努めている。ゆず湯など季節を楽しめる工夫もしている。リフト浴設備が完備されており、重度な状態でも湯船に浸かり入浴を楽しんでもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を選んでいただいたりマイシャンプーやリンスを使ったりしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できることはしていただきながら安全安楽に入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫をしたり入浴の大切さや必要性を説明して納得していただくようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	看護師による健康状態の確認、本人への確認を行い入浴支援をしている。入浴後には水分補給を必ず行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や毎日の生活の中より睡眠パターンの把握はできている。	/	/	/	日中活動を増やし過ごし方の工夫をするなど、安眠につながるよう取り組んでおり、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の原因は何か記録をもとに相談しあひ日中の過ごし方を見直したりして眠れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠れないことで本人に影響がある時は医師に相談している。その際、的確な情報が医師に伝わるよう最大限の注意をしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の様子や希望に合わせて休んでいただくようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話も手紙のやりとりもできる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があれば電話も手紙のやりとりも行える支援体制がある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスであるため居室でゆっくり話することができる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室の分かりやすいところに置いている。返信の希望があれば対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠方の家族や面会が難しい家族には電話での協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人が所持している方はいないが意味や大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一人ひとりがマイ財布を準備しており、いつでも買い物に行き自由に使えるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	よく利用しているスーパーは認知症についてとても理解されており安心して買い物ができる。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持に関してはなくなった時のリスクを考え難しい状況である。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持はしていないので話し合っていないが、使い方については話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	要望があれば受診の送迎から付添、入院時の洗濯やおむつ補充等を行っている。また、通夜や葬儀、選挙に出掛けたこともある。	◎	/	○	急な通院支援や選挙、葬式等、利用者や家族から要望があれば柔軟に対応するよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関まわりには季節の花を置き明るい雰囲気になるようにしている。ゆったり座って話しができるようベンチも設置している。	◎	◎	◎	玄関のまわりには季節の花が植えられ、事業所の愛犬を地域住民が可愛がりエサを持って来てくれるなど、事業所は親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁には利用者の作品を飾ったり、玄関に亀やめだかを飼ったりしてあたたかい雰囲気となるよう努めている。	◎	○	○	玄関には癒しとなる亀やめだかが飼われているほか、色鮮やかな着物が飾られるなど、家庭的な良い雰囲気である。整理整頓され清掃も行き届き、清潔感が感じられる。季節の花を活けたり、壁には利用者作成の貼り絵や書初めなどがあり、居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	美化の日をつくり掃除をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり花を活けたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	基本的には好きなように過ごしていただいている。ホールでも居室でも過ごし方は自由である。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレは共有空間に面しているがドアで仕切られているため直接は見えない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものや好みのものを持参していただいている。冷蔵庫やテレビを置いている方もいる。	◎	/	○	テレビやラジオ、家具、寝具など好みの物を持ち込み、家庭的で居心地よく過ごせるような居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりが設置されているため安全に移動できるようになっている。	/	/	○	建物内は、バリアフリー化され手すりも設置するなど、安全に移動できるようになっている。トイレをわかりやすく表示し、部屋には利用者の名前を表示するなど、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室の理解が難しい方には表札を設けている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ホールは新聞や雑誌が置いてあり自由に手にとれるようになっている。掃除道具やゴミ箱等分かれている方は汚れを見つけるとすんできれいにいただいている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかける弊害については概ね理解している。防犯のこともあり夜間等は施錠している。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害について理解し、日中玄関は施錠さず、自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望まれた家族はいない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	工夫するも難しく出ていけることがある。さらなる工夫に努めたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートや一人ひとりの受診ノートにて把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	変化や異常があれば職員への申し送り、看護師に報告をするとともに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることは看護師に相談し必要時には受診できる体制ができています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	これまでの受療状況を考慮し医療機関や主治医は本人・家族の希望に応じている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人・家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	基本、受診は施設が行っている。必要時には家族と相談し一緒に受診する。受診結果の報告は毎月送付している状態報告書にて行うが、急を要する場合は電話にて行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には職員が付添をするため必要な情報提供はできている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関との連携に努めている。退院時の支援も行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時には職員が付添をしている。病院が主催する研修会には参加するよう努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化や異常があればもちろんのこと、気になったことでも相談できその都度対応してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	夜中であっても携帯にて連絡がとれるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日の血圧・脈拍・酸素飽和度・体温測定、食事量や水分量、皮膚や排泄状態を把握することで状態に変化があれば看護師に報告し必要であれば受診している。それにより早期発見・治療につなげることができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	受診ノートや処方箋一覧表をみることで理解できるようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個人の服薬ボックスをつくり、1回分の薬がひと目で分かるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の様子等は常に確認している。新しい処方があった時は体調の変化に特に注意をはらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態の経過や変化等は記録しており、良い結果も悪い結果も報告している。				

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居の際、意向を聞くようにしている。 状態の変化があった際には、その都度確認するようにしている。	/	/	/	重度化や終末期等については、状態に応じ家族に説明しその都度意向を確認し、主治医等関係者を交え話し合い、方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化・終末期になった場合、医師、家族と話し合っている。そのうえで施設で看取るか病院で終末を迎えるのか決めている。	◎	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	職員の思いや本人、家族の思いを考慮してどこまで支援ができるのかを見極めている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できないことを特に説明し理解を得るようにしている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、主治医、病院と連携をとりながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを大切にされた対応を心がけ、些細なことでも相談できるように努めている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	マニュアルや研修等にて学んでいる。 肝炎やMRSAについては十分ではない。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	感染症マニュアルはあるが訓練は行っていない。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報は各機関より随時発信していただいている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況の情報は行政より随時発信していただいている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関にアルコール、マスクを設置している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	良好な関係を築きながら職員、家族が一緒になってよりよい支援ができるように努めている。				誕生会やクリスマス会などの行事案内を行い、家族に参加してもらっている。行事以外でも外出や散歩など、事業所での活動に協力してくれる家族もいる。家族には、利用者の状態報告書に定期的に発行の「便り」を添え送付し、利用者の様子を伝えている。運営推進会議で運営上のことを報告しているが、事業所の修理等、報告されていなかった例もあるなど、十分な報告に至っていないため、今後は毎月の状態報告書に記載し報告するなど、家族に伝わるよう工夫して欲しい。家族の面会時には必ず声かけし話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の様子を伝えたり、意見や要望等を聞くようにしている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間に制限を設けておらず、宿泊できる設備も整えている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族に呼びかけを行い参加してもらっている。	◎		○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月状態報告書を送り毎日の様子や食事量、血圧値等報告をしている。また、「たより」を発行し送付している。	◎		○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	状態報告書には毎日の様子や血圧値、食事量や排便状況、体重等記載している。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族との関係については色々な事情があることも考えつつ、認知症への理解や対応、接し方について支援している。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	介護報酬関係や行事については報告し理解を得るようにしているが、設備改修や機器の導入等の報告はしていない。		×	△		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会は設置していない。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについては説明している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に聞くようにしているが、言い難いことも考え意見箱を設置している。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書、説明書にて説明し納得していただいている。内容に変更があった時には文書を送付し説明している。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の際にはその先でも納得のいく支援が受けられるようにサポートする体制がある。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約書、説明書にて説明し納得していただいている。内容に変更があった時には文書を送付し説明している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	管理者は地域の役員となりボランティアや地域行事への参加にて理解を得るよう努めている。	/	◎	/	地域住民との挨拶は日常的に行われるほか、野菜のお裾分けをもらう関係性が築かれている。地区の敬老会にも出席し、節分や七夕、クリスマス会は、短大生や小学生との交流の機会を持つなど、地域とのつながりは深くなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	節分や七夕などの小学生との交流やクリスマス会は短大生、敬老会などは地域との交流にも努めている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症やグループホームの理解も深まっており支援してくれる人たちは増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄り遊びに来たりするまでにはいたっていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	以前は1番近くの家の方に推進委員になっていただいていたが、現在は日常のおつきあいは行っていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	小学校や短大生との交流会、ボランティア団体の来訪があり、利用者の充実を図ってもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握はできており支援しているが、全ての利用者にはできていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の方から差し入れをいただいたり、飲食店で外食をしたり、なじみの美容室では迎えに来ていただいたりしている。 教育施設からの実習の受入もしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	以前は利用者の参加があったが現在は参加していない。	×	/	×	運営推進会議に利用者の参加がないのが現状で、今後は利用者も家族と一緒に参加できるよう工夫した支援に努めて欲しい。会議では、事業所の活動状況や外部評価の内容、結果報告を行っており、参加者から出された意見や提案は、職員間で話し合い事業所の運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況や入退居状況の報告はしている。 外部評価の内容と結果は報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告に終わらず、意見や提案等を日々のサービスに取り組んでいる。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	予定が立てられるように開催日程は決めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	委員の方には渡している。事業所内では誰でも自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「笑顔と思いやり」を理念として全ての職員で共有し日々のケアで実践している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関に掲示しているが伝えるまではしていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内を掲示し参加を呼び掛けている。研修費や宿泊費等の支援の体制もある。	/	/	/	代表者は菜園の管理のため毎日のように事業所を訪れ、事業所のことや職員の状況を把握しており、ストレス対策委員を設置したり、職員の希望に応じるなど職員のストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	実務を行いながら指導しているが気が付いた時に行っており計画的には行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	全てを把握し評価して給与に反映している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他施設職員との交流会や隣接する施設との合同研修会を開催している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス対策委員を設置している。希望休は可能な限り対応し勤務についても意見を聞くようにしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止マニュアルや研修会において理解の向上に努めている。	/	/	/	職員は、マニュアルにより不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解・共有し、支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	記録を確認したり直接ケアについて話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士で注意をはらっている。発見した場合には直ちに管理者に報告するようになっている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状況の把握や職員への面談、様子に変化がないか注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止マニュアルを作成している。また、身体拘束廃止委員会の中でも勉強している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会の中で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	なぜそのような要望を言うのか理解するようにし、納得していただくまで話し合うようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修会にて理解するよう努めているが、理解度は職員によって差がある。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応できる体制は整っている。過去には制度利用につなげた実績がある。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	専門機関との連携体制が築けている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急手当の説明や実践はあるが、訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	記録して協議し、再発防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	毎日の様子からリスクや危険を考え事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成しており理解できている。対応についてはその都度話し合いにて決めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記録し対応手順にそって対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応手順にそって対応し納得を得られるように話し合うこととしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ケアマネや看護師、管理者が本人に聞くようにしている。	/	/	○	利用者からは、日常生活の中で意見等を聞き取り把握するよう努めている。家族からは面会時に声をかけ意見や要望を聞くようにしている。管理者は気さくな人柄で、職員との関係性も良好で日頃から職員との会話が多く、何でも相談することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している。苦情相談窓口を設け掲示している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	情報は事業所内に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は以前管理者をされていたこともあり頻繁に來られ直接話を聞かれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見や提案は随時聞くようにし利用者本位の支援ができるように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年1回取り組んでいるが職員全員ではできていない。	/	/	/	運営推進会議で報告は行っているが、家族が内容を十分に理解するまでには至っていないため、今後はわかりやすく報告し、モニターをしてもらうなどの取り組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	明らかになった現状や課題を意識統一の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	評価結果を踏まえて目標達成計画を作成し取り組んでいるが、いまだ達成できていないこともある。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価、モニターをしてもらう取り組みは十分ではない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では成果の確認を行っているが運営推進会議では行っていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震、風水害等のマニュアルは作成し周知徹底しているが、津波、原子力災害に関しては作成していない。	/	/	/	併設の施設と連携を図りながら災害訓練を行っているが、地域住民との協力体制が築かれていないため、今後は事業所の災害対策を地域住民にも理解してもらい、協力体制が築けるような取り組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災や地震等を想定した訓練は行っているが昼間のみである。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や備品、避難経路の点検は行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	隣接する施設との連携や体制の確保、訓練はできているが、地域住民との連携、訓練はできていない。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練はできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	情報発信や啓発活動等は行っている。	/	/	/	電話で相談を受けたり、町の相談を受けたりするほか、他の事業所のパンフレットを取り揃え、相談内容によって必要に応じ他の事業所を紹介するなど、適正な相談支援体制ができるよう努めている。管理者は、関係機関と連携の地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加するよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話相談の受け入れを行い臨機応変に対応すると共に、他の施設のパンフレットを取り揃え連携を図るなど、相談支援に努めている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	自由に使用できるカラオケスペース等があるが活用するまでにはいたっていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	教育施設からの介護実習の受け入れをしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	管理者は地域イベントやボランティア活動に積極的に参加している。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年1月22日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873900488
事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	富永久
自己評価作成日	2019年 1月 7日

<p>【事業所理念】 笑顔と思いやり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (前回の目標: 会議への積極的な参加と、会議の場では率直な意見が聞けるようにしていきたい。) 外部評価の結果を家族に伝え参加のお願いをすると数名の方が引き受けていただいたが、積極的な参加には至らなかった。 (前回の目標: 自身の思いを汲み取りながらその人らしい生活が送れるように支援していきたい。) 本人の行動や会話等、日々の関わりあいの中から思いや希望を汲み取っていきその情報を職員や家族・医療機関等とも共有するように努めた。 (前回の目標: 非常災害時には地域と協力し合えるような協力体制を作っていきたい。) 地域との協力体制を確保することはできなかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は自然豊かな環境に囲まれ利用者は季節の移り変わりを目や肌で感じながら過ごすことができている。職員は尊厳や礼儀を大切にしながら支援に努め、初心を忘れないよう心がけている。利用者の思いに寄り添いながら介護計画が作成され一つ一つ達成できるよう支援している。開設して15年、地域住民との交流を大切に地域に密着した事業所となっている。利用者の重度化を踏まえ、利用者や家族の意向に沿えるよう主治医と連携を図り、積極的に看取り支援に努めている。</p>
----------------------------	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時、計画作成時に聞き取りしている。又、毎日の生活の中からも汲み取るように努めている。	◎	/	○	毎日の生活の中で会話を多くもち、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。入居時や介護計画作成時にも暮らし方の希望を第一に聞き取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情等から思いを汲み取るようにしている。又、気持ちに立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時等に「本人の思い」について聞くようにしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気付いたことや感じたこと等は記録し、申し送りノートにて情報の共有を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思い込みや決めつけにならないようチームで考えている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に聞き取りを行いフェースシートに記入している。	/	/	○	利用者や家族、入居前に関わっていた事業所の職員から情報を得ることが多い。入居後、友人や近所の農業仲間が面会に来た際に新たな情報を聞いており、得られた情報はフェイスシートに残し共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できることはしていただき、できそうなことは一緒にしながら、毎日の生活の中で把握できるように努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	毎日の生活の中で把握し、申し送りや記録等で情報共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日の生活の中で把握し、申し送りや記録等で情報共有しているが不十分な所もある。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録の中で変化や違いを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	入所時、計画作成時に希望・意向を聞き把握に努めるようにしている。	/	/	○	入居時に把握した利用者や家族の意向をもとに、利用者本位の視点で話し合い検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスにてどのような支援が必要か話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人や家族、関係者等の意向を踏まえ課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族の意向を聞いて介護計画を立てている。また、聞き取りが困難な方に対しては日々の様子から汲み取り介護計画に反映できるようにしている。	/	/	/	外出したい、楽しみを見つけたいの利用者の思いに応えるため、職員と家族が話し合いそれぞれの意見を出し合って利用者本意の介護計画となるよう取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族や関係者等と利用者本人がよりよく暮らすためのケアのあり方について相談している。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族や関係者等と相談しながらその人らしい日々が過ごせるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族や地域の人たちの協力を得ることはあるが介護計画に盛り込むことは少ない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録ファイルの中に綴じておりいつでも確認できるようになっている。	/	/	○	介護計画と経過記録は一つのファイルに綴じており、記録の際に確認して共有している。介護記録は「ケアプランに基づく介護・生活状況」の項目で利用者の様子を具体的に記録している。職員の気づきなどは報告しながら記録するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランに基づく介護として記録している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとり個別に具体的に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づきや工夫、アイデア等の報告や申し送りはあるが一人ひとり個別に具体的に記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間ごとに見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は基本3か月で見直しているが、利用者の状態に応じ、3か月～6か月で見直している。変化がみられない場合も毎月モニタリングを行い気づきを記録している。状態に変化が生じた場合は、その都度家族や関係者等と話し合い、現状に合った介護計画に見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	適切なケアが行われているか目標にむかったケアが行われているか確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態、状況に応じて見直しを行うようにしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急案件については会議という形ではなく担当職員にて話し合いをしている。	/	/	○	緊急案件の場合は、会議という形はとらず担当者でその都度話し合い共有するようにしている。会議等に参加できない職員には、連絡ノートを確認し共有するよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	介護に関することだけでなく色々な意見が言える雰囲気となっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全職員が参加する会議の開催は難しいため、リーダーが全職員の意見を聞いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	連絡ノートで伝えるようにしている。確認したらサインをするようになっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝と夕に申し送りを行っている。また、申し送りノート等を活用して確認した際はサインをするようにしている。	/	/	○	事業所全体のノートやユニット毎のノート、業務日誌などを活用し申し送りをし、情報を伝達するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝と夕の申し送りや申し送りノート、業務日誌等に記入して必要な情報が伝わるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	介護計画や本人の意向をもとにしたいことへの支援を行っているが、その日その時々思いを聞いている。	/	/	/	朝の着替えの際に、洋服やくつ下など何かひとつでも選んでもらえるようにしている。調査日もテレビのチャンネルやかるた遊びなど、利用者が自由に選んで楽しむ光景を窺うことができた。日頃から職員は笑顔でゆっくりとした声かけを心がけるなど、利用者の笑顔を引き出せるよう雰囲気づくりを工夫している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択しやすい場をつつたり、どうしたらよいか意向をたずねるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	選択しやすい場をつつたり、どうしたらよいか意向をたずねるようにしているが、職員の都合で動いている時もないとはいえない。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を大切に支援しているが、生活にはリズムがあること、共同生活の場であることによっては決まりが優先されてしまうこともある。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔でゆっくりとはっきりとした声かけを心がけている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	毎日の生活の中から表情や仕草等より意向を把握して支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修会にて勉強する機会をもっている。人権やプライバシーを大切に行動をするよう努めている。また、職員同士で注意しあうよう心掛けている。	◎	◎	◎	人権や尊厳について内部研修で勉強する機会をつくっており、職員全員が利用者のプライバシー尊重を意識した支援に努めている。トイレ誘導等の際は、さりげない声かけを徹底するよう努めている。居室に入室の際は、必ずノックや声かけをするようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレ誘導時には小声でオムツ交換の際にはさりげなく行うようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	居室やリビングから見えにくいよう目隠しをしている。羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室の際には声かけやノックをしている。また、居室不在の時でも声かけをするようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護及び個人情報漏えい防止等に関する誓約書に署名をし退職後も義務があることを周知徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	花の名前や料理の仕方、昔の歌や方言・風習など教えていただくことが多くある。	/	/	/	職員は利用者それぞれの性格を理解し、席配置等には気を配り、利用者同士のトラブル防止に努めている。不穏になりそうな場合には、職員が仲介し、別室に移動し気分転換を図るなどして支援している。食後に世話好きな利用者が、重度の利用者の口元やエプロンの食べこぼしを拭く微笑ましい光景を窺うことができた。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	食器を片づけたりエプロンをつけたり、車いすを押ししたり席を譲ったりされている。その際、職員は見守り感謝の意を示している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し席の配置や会話等に気を付けているが、トラブルゼロにはいたっていない。仲の良い利用者同士は楽しく一緒に過ごしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要な場合には家族、医師とも相談したり推進会議等でも相談・助言をいただくようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族、地域の方や以前受けていたサービス事業所等から聞き取りをしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族、地域の方や以前受けていたサービス事業所等から聞き取りをしている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅でのバーベキューに参加できるよう支援したり、なじみの場所での散髪や食事、買物等の支援も行うようにしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間に制限をつくらず、いつでも気軽に訪問していただけるようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	庭に散歩に出たりベランダにてお茶をしたりして過ごしている。本人や家族の意向もあり、ドライブによく行く利用者は決まってきた。	○	×	○	広い庭先を散歩したり畑の作物を見に行ったりしている。ベランダに出てお茶を楽しんだり、ドライブに出かけたりすることもある。重度な利用者もベランダに出たり、併設の施設へ交流に行ったりして、戸外に出かけられるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員との外出が主となっている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	庭に散歩に出たりベランダにて外気浴や日光浴をされている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力を得て一時帰宅や外出は行えているが、地域の人々の協力を得ることはできていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個々の利用者に応じた認知症の症状について正しく理解するよう取り組んでいる。	/	/	/	食事の配膳や洗濯物をたたむことなど、利用者にはできることに取り組んでもらっており、職員は見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	庭の散歩やラジオ体操、家事の手伝いや日常生活動作の中からも機能低下防止が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できることはしていただき、できそうなことはできるよう工夫したり一緒に行うようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人の価値観や有する力を把握するよう努めている。	/	/	/	日めくりカレンダーを変えることや、掃除や洗濯物をたたむことなど、職員は利用者一人ひとりが有する力に応じ、役割を担ってもらえるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その人の有する力に応じて役割を持ってもらい、日課や生きがいになるように取り組んでいる。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の季節の行事に参加したり、他施設の利用者様と交流をもつようになっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自身の服を持ってきていただきどれを着るか選んでいただいている。	/	/	/	職員は整容の乱れや食べこぼしなどに注意を払い、利用者のプライドを傷つけないよう配慮し、さりげない支援に努めている。重度の利用者も訪問時間で髪を整えたり、出かける際は好みの服装に着替えるなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自身の服を持ってきていただきどれを着るか選んでいただいている。また、服や持ち物等は一緒に買い物に行き好きな物を選んでいただいている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	何点か選んでその中から決めていただくようにするが、その何点かは職員が選んでしまっている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の際には帽子をかぶったりスカーフやケープを巻いたりして、おしゃれを楽しんでいただいている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを傷つけないようさりげなくカバーするよう心掛けている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	お気に入りの美容室でカットされたり家族様がカットされたり等、本人や家族が望むよう支援できている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	なじみの美容室に来院してもらいカットしていただいている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事とは生きていくうえでとても重要であり、かつ楽しみでもあることを理解している。	/	/	/	利用者と一緒に好みの物を取り入れながら献立を考えたり、買い物に行ったりしている。調理の下準備や台拭きなどできる利用者は手伝っている。菜園で収穫した旬の野菜を使って家庭的な料理を作るよう心がけている。湯呑みや茶碗など、自宅から持ってきた食器や使い勝手のいいものを使用している。職員と一緒に食事をすることもあるが、食事介助を優先し利用者の食事が終わった後に摂ることもあるため、職員間で食事介助と利用者と一緒に食事する役割を分担するなど検討して欲しい。重度な状態でも、リビングに出て調理の匂いなどの雰囲気を感じられるよう努めている。栄養士が献立表を確認しバランス良く栄養が摂れるよう努めているほか、職員間でも利用者の栄養バランスについて話し合い偏らないようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜を新聞紙で包んだり野菜の皮をむいたりすることで一緒に調理している。買い物や食品庫からの物品の出庫も手伝っていただいている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	自身の役割割りとして積極的にされている方もおられる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に聞き取りを行っている。毎日の生活の中からも把握するように努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の食材を用いた家庭的な料理を提供するようにしている。また、行事食を提供することで季節を感じられるようにしている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食や刻み食での対応となる時は、医師や栄養士等からの指導を受けながら対応している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅より持ってきていただいたり、状態に応じたものを使っている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じ食事を食べることに関しては職員に任せている。(どこで何を食べるかは自由としている)一人ひとりのペースに合わせた介助を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	必ずホールで一緒に食事を食べるようにしている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの食べれる量を考え盛り付け提供している。栄養バランスや水分摂取量は栄養士の助言のもと行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	低栄養や脱水には特に気を付けており、血液検査にて状態を把握し必要な時は栄養補助食品等、利用している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	メニュー表をつけ確認することで偏らないようにしている。また、栄養士にも確認してもらいバランスのよい食事の提供をなるべく心掛けている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	基本、野菜は道の駅で購入したものや自らの畑で育てた物を使用している。調理用具は毎日消毒をしている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後、口腔ケアを行っている。状態に応じた用具を使用することで誤嚥性肺炎の防止を図っている。	/	/	/	利用者の口腔内は定期的に確認し、状況を把握するようにしている。職員は食後、利用者を洗面台に誘導しそれぞれにあった用具で口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	利用者の口腔内は定期的に確認し、清潔が保てるよう支援している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	受診の際に学んでいる。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後洗浄し、夜は洗浄剤につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	状態に応じた用具を用いることで口腔の清潔を保つよう支援している。出血や炎症、入れ歯の具合は定期的に確認している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	状態に変化があった時は家族に連絡をし受診している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄支援の重要性やデリケートなケアであること等概ね理解している。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とし、利用者の排泄パターンを把握し早めに声かけや誘導を行うようにしている。おむつやパッドの必要性については、常時話し合いを持ち、家族に了解を得ながら利用者一人ひとりの状態に合った支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解できており排便日・排便状態の確認の重要性も認識している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録表に記入して排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	パットを使用することで個人負担の軽減を図ったり、夜と昼の使用内容を変えることでトイレで排泄ができるよう支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	様々な面より色々な要因を考え改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンをもとに早めの声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	状態や排泄パターンをもとに相談し、家族の同意を得てからのおむつ使用としている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態に合わせて使用している。昼と夜の使い分けや下剤服用時、おむつの形等	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルト、牛乳等の提供や腹部マッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	月・水・金と基本は決まっているが、希望があり職員の体制が整っていれば入浴可能である。	◎	/	○	入浴日は決まっているが、利用者の要望があれば浴えるよう努めている。ゆず湯など季節を楽しめる工夫もしている。リフト浴設備が完備されており、重度な状態でも湯船に浸かり入浴を楽しんでもらえるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を選んでいただいたりマイシャンプーやリンスを使ったりしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できることはしていただきながら安全安楽に入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけの工夫をしたり入浴の大切さや必要性を説明して納得していただくようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	看護師による健康状態の確認、本人への確認を行い入浴支援をしている。入浴後には水分補給を必ず行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録や毎日の生活の中より睡眠パターンの把握はできている。	/	/	/	日中活動を増やし過ごし方の工夫をするなど、安眠につながるよう取り組んでおり、安易に薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の原因は何か記録をもとに相談しあひ日中の過ごし方を見直したりして眠れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠れないことで本人に影響がある時は医師に相談している。その際、的確な情報が医師に伝わるよう最大限の注意をしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の様子や希望に合わせて休んでいただくようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば電話も手紙のやりとりもできる。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があれば電話も手紙のやりとりも行える支援体制がある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	コードレスであるため居室でゆっくり話すことができる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室の分かりやすいところに置いている。返信の希望があれば対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠方の家族や面会が難しい家族には電話での協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人が所持している方はいないが意味や大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一人ひとりがマイ財布を準備しており、いつでも買い物に行き自由に使えるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	よく利用しているスーパーは認知症についてとても理解されており安心して買い物ができる。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金の所持に関してはなくなった時のリスクを考え難しい状況である。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持はしていないので話し合っていないが、使い方については話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	所持していない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	要望があれば受診の送迎から付添、入院時の洗濯やおむつ補充等を行っている。また、通夜や葬儀、選挙に出掛けたこともある。	◎	/	○	急な通院支援や選挙、葬式等、利用者や家族から要望があれば柔軟に対応するよう努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関まわりには季節の花を置き明るい雰囲気になるようにしている。ゆったり座って話しができるようベンチも設置している。	◎	◎	◎	玄関のまわりには季節の花が植えられ、事業所の愛犬を地域住民が可愛がりエサを持って来てくれるなど、事業所は親しみやすく入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁には利用者の作品を飾ったり、玄関に亀やめだかを飼ったりしてあたたかい雰囲気となるよう努めている。	◎	○	○	玄関には癒しとなる亀やめだかが飼われているほか、色鮮やかな着物が飾られるなど、家庭的な良い雰囲気である。整理整頓され清掃も行き届き、清潔感が感じられる。季節の花を活けたり、壁には利用者作成の貼り絵や書初めなどがあり、居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	美化の日をつくり掃除をしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合わせた飾り物をしたり花を活けたりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	基本的には好きなように過ごしていただいている。ホールでも居室でも過ごし方は自由である。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレは共有空間に面しているがドアで仕切られているため直接は見えない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れたものや好みのものを持参していただいている。冷蔵庫やテレビを置いている方もいる。	◎	/	○	テレビやラジオ、家具、寝具など好みの物を持ち込み、家庭的で居心地よく過ごせるような居室になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりが設置されているため安全に移動できるようになっている。	/	/	○	建物内は、バリアフリー化され手すりも設置するなど、安全に移動できるようになっている。トイレをわかりやすく表示し、部屋には利用者の名前を表示するなど、自立した生活が送れるよう配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室の理解が難しい方には表札を設けている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ホールは新聞や雑誌が置いてあり自由に手にとれるようになっている。掃除道具やゴミ箱等分かれている方は汚れを見つけるとすずんできれいにいただいている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかける弊害については概ね理解している。防犯のこともあり夜間等は施錠している。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害について理解し、日中玄関は施錠さず、自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望まれた家族はいない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	工夫するも難しく出ていけることがある。さらなる工夫に努めたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェースシートや一人ひとりの受診ノートにて把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	変化や異常があれば職員への申し送り、看護師に報告をするとともに記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることは看護師に相談し必要時には受診できる体制ができています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	これまでの受療状況を考慮し医療機関や主治医は本人・家族の希望に応じている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人・家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	基本、受診は施設が行っている。必要時には家族と相談し一緒に受診する。受診結果の報告は毎月送付している状態報告書にて行うが、急を要する場合は電話にて行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には職員が付添をするため必要な情報提供はできている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	医療機関との連携に努めている。退院時の支援も行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時には職員が付添をしている。病院が主催する研修会には参加するよう努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化や異常があればもちろんのこと、気になったことでも相談できその都度対応してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	夜中であっても携帯にて連絡がとれるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日の血圧・脈拍・酸素飽和度・体温測定、食事量や水分量、皮膚や排泄状態を把握することで状態に変化があれば看護師に報告し必要であれば受診している。それにより早期発見・治療につなげることができている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	受診ノートや処方箋一覧表をみることで理解できるようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個人の服薬ボックスをつくり、1回分の薬がひと目で分かるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の様子等は常に確認している。新しい処方があった時は体調の変化に特に注意をはらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態の経過や変化等は記録しており、良い結果も悪い結果も報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居の際、意向を聞くようにしている。 状態の変化があった際には、その都度確認するようにしている。	/	/	/	重度化や終末期等については、状態に応じ家族に説明しその都度意向を確認し、主治医等関係者を交え話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化・終末期になった場合、医師、家族と話し合っている。そのうえで施設で看取るか病院で終末を迎えるのか決めている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	職員の思いや本人、家族の思いを考慮してどこまで支援ができるのかを見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できないことを特に説明し理解を得るようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、主治医、病院と連携をとりながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを大切にされた対応を心がけ、些細なことでも相談できるように努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	マニュアルや研修等にて学んでいる。 肝炎やMRSAについては十分ではない。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	感染症マニュアルはあるが訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報は各機関より随時発信していただいている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況の情報は行政より随時発信していただいている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関にアルコール、マスクを設置している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	良好な関係を築きながら職員、家族が一緒になってよりよい支援ができるように努めている。	/	/	/	誕生会やクリスマス会などの行事案内を行い、家族に参加してもらっている。行事以外でも外出や散歩など、事業所での活動に協力してくれる家族もいる。家族には、利用者の状態報告書に定期的に発行の「便り」を添え送付し、利用者の様子を伝えている。運営推進会議で運営上のことを報告しているが、事業所の修理等、報告されていなかった例もあるなど、十分な報告に至っていないため、今後は毎月の状態報告書に記載し報告するなど、家族に伝わるよう工夫して欲しい。家族の面会時には必ず声かけし話しやすい雰囲気づくりに努め、利用者の様子を伝えたり、意見や要望等を聞くようにしている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間に制限を設けておらず、宿泊できる設備も整えている。	/	/	/		
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族に呼びかけを行い参加してもらっている。	◎	/	○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月状態報告書を送り毎日の様子や食事量、血圧値等報告をしている。また、「たより」を発行し送付している。	◎	/	○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	状態報告書には毎日の様子や血圧値、食事量や排便状況、体重等記載している。	/	/	/		
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族との関係については色々な事情があることも考えつつ、認知症への理解や対応、接し方について支援している。	/	/	/		
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	介護報酬関係や行事については報告し理解を得るようにしているが、設備改修や機器の導入等の報告はしていない。	/	/	×		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会は設置していない。	/	/	/		/
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについては説明している。	/	/	/		/
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に聞くようにしているが、言い難いことも考え意見箱を設置している。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約書、説明書にて説明し納得していただいている。内容に変更があった時には文書を送付し説明している。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の際にはその先でも納得のいく支援が受けられるようにサポートする体制がある。	/	/	/		
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約書、説明書にて説明し納得していただいている。内容に変更があった時には文書を送付し説明している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	管理者は地域の役員となりボランティアや地域行事への参加にて理解を得るよう努めている。	/	◎	/	地域住民との挨拶は日常的に行われるほか、野菜のお裾分けをもらう関係性が築かれている。地区の敬老会にも出席し、節分や七夕、クリスマス会は、短大生や小学生との交流の機会を持つなど、地域とのつながりは深くなっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	節分や七夕などの小学生との交流やクリスマス会は短大生、敬老会などは地域との交流にも努めている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症やグループホームの理解も深まっており支援してくれる人たちは増えている。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	気軽に立ち寄り遊びに来たりするまでにはいっていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	以前は1番近くの家の方に推進委員になっていただいていたが、現在は日常のおつきあいまでは行っていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	小学校や短大生との交流会、ボランティア団体の来訪があり、利用者の充実を図ってもらっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源の把握はできており支援しているが、全ての利用者にはできていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の方から差し入れをいただいたり、飲食店で外食をしたり、なじみの美容室では迎えに来ていただいたりしている。教育施設からの実習の受入もしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	以前は利用者の参加があったが現在は参加していない。	×	/	×	運営推進会議に利用者の参加がないのが現状で、今後は利用者も家族と一緒に参加できるよう工夫した支援に努めて欲しい。会議では、事業所の活動状況や外部評価の内容、結果報告を行っており、参加者から出された意見や提案は、職員間で話し合い事業所の運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動状況や入退居状況の報告はしている。外部評価の内容と結果は報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	一方的な報告に終わらず、意見や提案等を日々のサービスに取り組んでいる。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	予定が立てられるように開催日程は決めている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	委員の方には渡している。事業所内では誰でも自由に閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「笑顔と思いやり」を理念として全ての職員で共有し日々のケアで実践している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関に掲示しているが伝えるまではしていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内を掲示し参加を呼び掛けている。研修費や宿泊費等の支援の体制もある。	/	/	/	代表者は菜園の管理のため毎日のように事業所を訪れ、事業所のことや職員の状況を把握しており、ストレス対策委員を設置したり、職員の希望に応じるなど職員のストレス軽減に努め、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	実務を行いながら指導しているが気が付いた時に行っており計画的には行っていない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	全てを把握し評価して給与に反映している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他施設職員との交流会や隣接する施設との合同研修会を開催している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス対策委員を設置している。希望休は可能な限り対応し勤務についても意見を聞くようにしている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止マニュアルや研修会において理解の向上に努めている。	/	/	/	職員は、マニュアルにより不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順について理解・共有し、支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	記録を確認したり直接ケアについて話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員同士で注意をはらっている。発見した場合には直ちに管理者に報告するようになっている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務状況の把握や職員への面談、様子に変化がないか注意している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束廃止マニュアルを作成している。また、身体拘束廃止委員会の中でも勉強している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束廃止委員会の中で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	なぜそのような要望を言うのか理解するようにし、納得していただくまで話し合うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修会にて理解するよう努めているが、理解度は職員によって差がある。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば対応できる体制は整っている。過去には制度利用につなげた実績がある。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	専門機関との連携体制が築けている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時対応マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急手当の説明や実践はあるが、訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	記録して協議し、再発防止に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	毎日の様子からリスクや危険を考え事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成しており理解できている。対応についてはその都度話し合いにて決めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記録し対応手順にそって対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	対応手順にそって対応し納得を得られるように話し合うこととしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ケアマネや看護師、管理者が本人に聞くようにしている。	/	/	○	利用者からは、日常生活の中で意見等を聞き取り把握するよう努めている。家族からは面会時に声をかけ意見や要望を聞くようにしている。管理者は気さくな人柄で、職員との関係性も良好で日頃から職員との会話が多く、何でも相談することができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置している。苦情相談窓口を設け掲示している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	情報は事業所内に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は以前管理者をされていたこともあり頻繁に來られ直接話を聞かれている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見や提案は随時聞くようにし利用者本位の支援ができるように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホームさくら

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年1回取り組んでいるが職員全員ではできていない。	/	/	/	運営推進会議で報告は行っているが、家族が内容を十分に理解するまでには至っていないため、今後はわかりやすく報告し、モニターをしてもらうなどの取り組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	明らかになった現状や課題を意識統一の機会としている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	評価結果を踏まえて目標達成計画を作成し取り組んでいるが、いまだ達成できていないこともある。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価、モニターをしてもらう取り組みは十分ではない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では成果の確認を行っているが運営推進会議では行っていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震、風水害等のマニュアルは作成し周知徹底しているが、津波、原子力災害に関しては作成していない。	/	/	/	併設の施設と連携を図りながら災害訓練を行っているが、地域住民との協力体制が築かれていないため、今後は事業所の災害対策を地域住民にも理解してもらい、協力体制が築けるような取り組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災や地震等を想定した訓練は行っているが昼間のみである。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備や備品、避難経路の点検は行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	隣接する施設との連携や体制の確保、訓練はできているが、地域住民との連携、訓練はできていない。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練はできていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	情報発信や啓発活動等は行っている。	/	/	/	電話で相談を受けたり、町の相談を受けたりするほか、他の事業所のパンフレットを取り揃え、相談内容によって必要に応じ他の事業所を紹介するなど、適正な相談支援体制ができるよう努めている。管理者は、関係機関と連携の地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加するよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話相談の受け入れを行い臨機応変に対応すると共に、他の施設のパンフレットを取り揃え連携を図るなど、相談支援に努めている。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	自由に使用できるカラオケスペース等があるが活用するまでにはいたっていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	教育施設からの介護実習の受け入れをしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	管理者は地域イベントやボランティア活動に積極的に参加している。	/	/	○	